

## 「旬」の植物紹介（7月編）

梅雨空によく似合う花。それは ネムノキ *Albizia julibrissin* Durazz. (マメ科 [ネムノキ属](#)) ではなかろうか。梅雨もまだ明けきらぬ暑苦しいこの時期に、ピンク色に近い花は「うっとうしい」と写るかも知れないが、ネムノキばかりは例外である。

試しに花を一つつまんで香りをかいてみた。予想どおりの甘い香りと、ほおずりしても柔らかなやさしい触感が心をいやしてくれる。

ネムノキは、就眠運動により夜に葉を閉じて“眠る”ことから「ねぶ」と呼ばれ、中世に現在の「ネムノキ」になったという。中国名「合歡（ごうかん）」も「ねぶ」も男女の共寝を連想させることから、『万葉集』では主に恋の歌で詠まれた。春先に他の木が葉っぱを展開する季節になっても“枯れてる？”と思うくらい、あとからゆっくりと葉を茂らせてゆく。何かの戦略なのか、単なる寝ぼすけなのか、つくづく面白い植物ではある。

明るい環境で生育している個体は、細くしなやかな印象を受けるが、中には胸高直径（地面から1. 2 ㍎の位置）が40㍎ほどの大木に出会うこともある。縦方向に裂け上がる性質があり、傾斜したこの木に鋸を入れるときは細心の注意が必要である。





引用：岡山理科大学「植物雑学辞典」  
樹木の名前 山と溪谷社刊